

ハスについて

58期生

I テーマ設定の理由

私は小学生のとき、少し「ハス」について調べたことがあります。でも、小学生の私にとっては難しい用語ばかりで、ほんの一部しか知識になりませんでした。また、意味の分からない中でも、まだまだ奥が深いと思ったので、この機会に調べてみようと思い、調べました。

II 研究方法

- ・インターネットや植物図鑑などで、ハスについて調べる。
- ・植物園に行き、資料と実物を一致させる。
- ・実際にハスを観察する。

III 研究内容

1. ハスって何のこと?

「ハスっていきなり言われても、全然分からない!」という人、辞書を引いてみてください。国語辞典で十分です。私も引きました。「池や沼に生える、多年草。夏、白やピンクの花が咲く。」それだけ!? 前に調べて知ってるよ! この文章で、「ああ、あれか。」と思える人は、少ないと思います。そこで、この文に付け足しをしながら、ハスを紹介しましょう。

【ハスってどんなもの?】

ハスはハス科ハス属の花です。(まあそのままですね…。) 原産地は、熱帯～温帯のアジア・オーストラリア・アメリカ大陸です。ハスは、レンゲとも呼ばれます。ちなみに、レンゲソウとは違います。

2. 植物園のハス

私は、ハスの開花時期に合わせ、長居植物園で早朝開園していることを知り、長居植物園に行ってきました。その時撮った写真を、説明などを付けて、紹介します。

と、その前に、ハスの一日を説明します。

ハスは、朝(午前中)に花が開きます。そして、太陽が高くなるころには、花を閉じてしまいます。ですから、夜に花を見ようなんて論外です。

なぜハスの開花時期に合わせて早朝開園を行っているのか、分かりましたか? わざわざ広い公園の一角にある植物園に足を運んで、「ハスを見よう」と思っていたのに花が全部閉じかかっていた。な～んて、嫌ですよ。私だったら、絶対に閉じかけの花なんて見たくありません。

それでは、次のページの写真1を見てください。

入り口を通過して真っ直ぐ歩いて行くと、大きな池が見えてきました。そしてその池に、目を疑いたくなる位、たくさんのハスが咲いていました。

そして、予想以上にたくさんの人が、ハスの写真を撮ったり、花を鑑賞したりしていました。

ところで、この写真で分かりますか？ ぱっと見ただけでは、葉と花ぐらいしか分からないと思います。なので、葉や花など、ハスを部分的に写した写真で説明したいと思います。すごく大まかな説明になります。



写真1

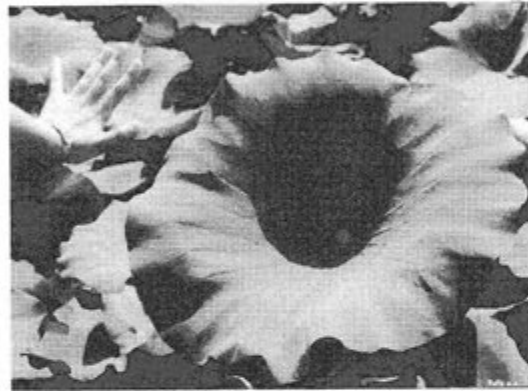


写真2

まず驚いたのが、一枚一枚の葉の大きさ。どれも大きいのですが、写真2の様に、私の手と比べると、一目瞭然。どれぐらい大きいのか分かりますよね？ 長居植物園のハスの葉は、どれも写真の様な大きさで、とても圧倒されました。それに、厚みもあって、すごく丈夫そうでした。

写真3



続いて花。写真3、これがハスの花です。色はうっすらとしたピンクです。

花卉の先端に近くなるにつれて、だんだんと色が濃くなっています。

花の中央部分には、花托（めしべ）とおしべがあります。

どうですか？ この花、見たことありますか？

そして写真4。これは、花を上から見下ろしたものです。先程説明した、花托とおしべがあるのですが、どれか分かりますか？ 中央の丸いものが花托で、その回りにたくさんあるのがおしべです。

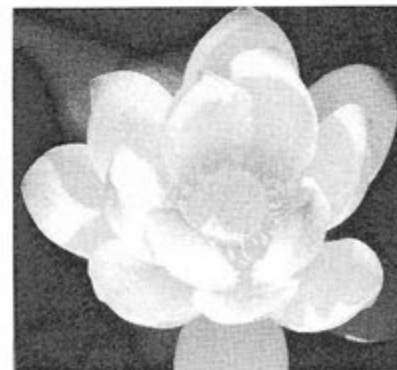


写真4

写真5は、花が終わり、花卉がすっかり落ちてしまった後の、花托とおしべです。

写真4の時には綺麗な黄色だったおしべは、やまぶき色っぽくなり、花托も少しだけ大きくなっています。



写真5

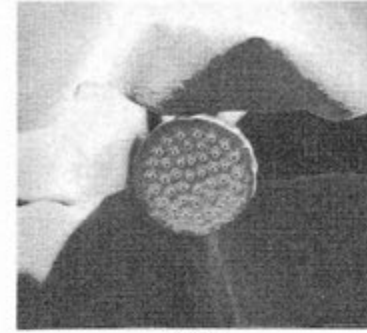


写真6

写真6は、おしべもすっかり落ち、成長した花托です。円の中に黒いぶちぶちがいっぱい…。少し気持ち悪いけど、ハスにとってはすごく大切な成長過程なんです。中に種子が入っているんです。

色は、花があったときとは全然違い、緑に近い黄緑色です。一口に緑と言っても良い位の色です。

しかし、まだまだ成長の途中。これからもっと成長するんです。

話は少し戻ります。

写真7と写真8、どこが違うかわかりますか？



写真7



写真8

まず写真7。「つぼみでしょ。」と思った人、正解です。写真7（中央に写っている方）はつぼみです。つぼみは、初め緑色をしています。そして開花に近づくにつれ、だんだんと花の色（花卉の色）になってきます。それも内側から順番に。写真7は、外側の花卉はまだ緑色です。でも、先端に近い、花の中央に近い花卉は、もう鮮やかなピンク色をしています。

そして写真8。これはつぼみではありません。似ているけど違います。まだ薄い緑がかかった花卉もあるのですが、違います。写真8は、一度開花した花が、午後になって閉じたものです。だから、花が開く前のつぼみとは全く違うのです。

3. ハスの根はどこ？

今まで、ハスの葉や花などの水面より上にある、私たちが普通に見ている部分について説明してきました。でも、ハスだって植物ですから、水や養分を吸い上げ、あの大きな葉を支えている根があります。ちゃんと土の中にあるんですよ。それに、根が無ければ、あんなに綺麗な花を咲かすこともできません。では、ちょっと葉や花などから視点を少し下に移し、ハスの茎や根がある、水中や地下を知りましょう。まずは、基本的な構造を見てみましょう。

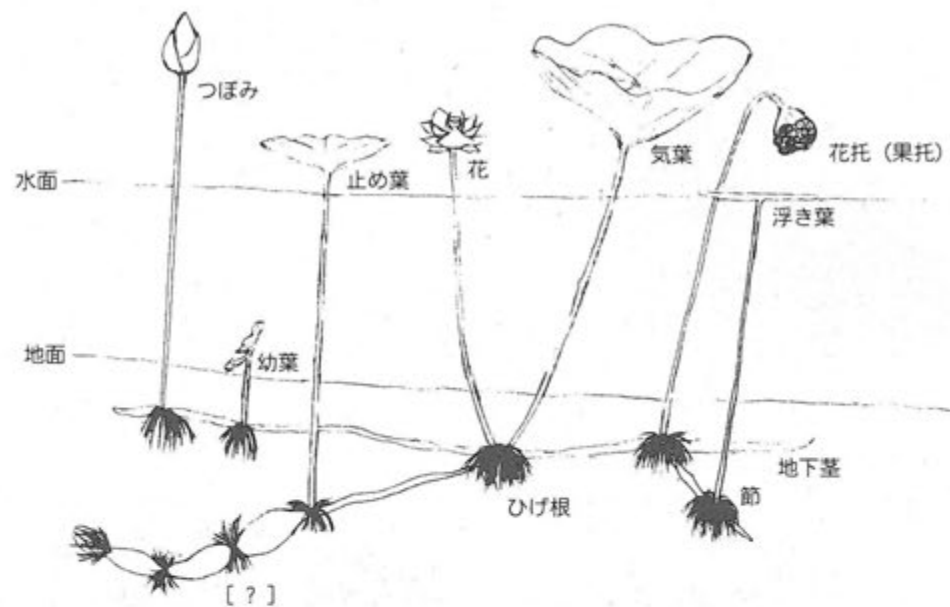


図1

ものすごく簡略してありますが、分かりますか？ ハスは、ひげ根が節に少し生えているぐらいで、あとは地下茎なんです。それと、単子葉類ですね。

では、図1の [?] は何でしょう。皆さん、よく知っているはずですよ。

【ハスの地下茎】

図1の [?]。分かった人もいないのではないのでしょうか。分からない人のために、ヒントを出します。

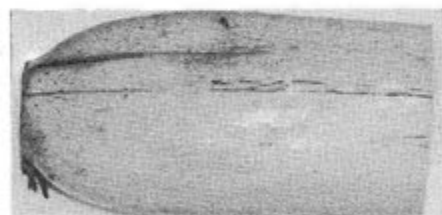


写真9

写真9がヒントです。

左の黒いのが、ひげ根です。ひげ根が生えているところ、少し細くなっています。これが節です。

どうです、分かりましたか？ それでは正解を見てください。(写真10)

はい、正解はレンコンです。どの時点で分かりましたか？

皆さんが普段食べているレンコンの花が、ハスなんです。少し親近感が出てきましたか？

それに、このレンコンの穴の数、大体決まっているんです。真ん中の穴が一個、その穴の周りの穴が9個か10個。小さい穴は別にして数えてください。このレンコンには全部で10個、穴が開いています。

今度レンコンを見かけたら、穴の数を数えてみてください。

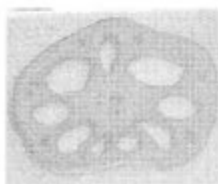


写真10

【ハスって漢字でどう書くの?】

「ハス」とカタカナで書いてきたけれど、「ハス」にも漢字があります。知っていますか？ 「ハス」は「蓮」と書きます。「レンゲ」は「蓮華」と書きます。

では、「レンコン」はどう書くでしょう。「レンコン」は蓮の根（地下茎）、つまり「蓮根」と書き、「ハスネ」とも読まれます。

4. 蓮の豆知識

(1) 蓮の品種

まず、蓮には大きく2つに分かれます。食用蓮と観賞用蓮です。

日本に古くからあった蓮は、あまり地下茎が発達しない品種だったので、主に観賞用でした。しかし、中国から入ってきた品種は、地下茎が発達し、食用でした。でも、食用と言っても、全て食べるためのものではなく、薬用植物としても扱われました。

また、中国からの品種を使い、多くの品種改良が行われました。何と江戸時代には、100以上の観賞用の品種が作られています。

ところで、数多くの品種のうち、野生の種がどのくらい残っているか、知っていますか？ 何と、たったの2種しかないんです。その2種とは、インド・中国・オーストラリア北部を中心に分布する種と、北アメリカから南アメリカにかけて分布する種です。

そのうちのアメリカ大陸に分布する種は、「キバナハス」という黄花の蓮です。

アメリカの広大な原野に広がる湖沼・沼沢には、キバナハスの淡黄色の大輪の花が群生する光景が見られるそうです。その花径は、25 cm程です。そして、インド・中国・オーストラリア北部に分布する種との一番の違いは、キバナハスには自生地があることです。アジアの蓮は、原種の自生地が次々に失われています。

(2) 日本の蓮

日本にも、国を代表する蓮があります。その蓮とは、1951年に、蓮研究家の大賀博士が、千葉県の大見川の2000年以上も前の地層から発掘した種子が開花したもので「大賀蓮」といいます。大賀蓮は、日本各地にはもちろん、国外にも分けられました。まさに2000年前からの贈り物、といった感じでしょうか？

(3) 蓮と宗教

蓮は、仏教の中で「蓮華」と呼ばれ、その花の美しさと聖性をたたえられています。それは、泥の中に芽を出しながらも、決して泥に汚れることはなく、清らかな緑の葉を茂らせる、神々しい花とされているからでしょう。

また、ヒンドゥー教の神話で蓮は、水しか存在しなかった原初の宇宙に、命を宿す存在として現れた、「始まり」の花であったとされています。

(4) 花托と種

蓮の種子が入っている花托、何かに似ていると思いませんか？ 実は、蓮は昔、花托の形が蜂の巣に似ていたことから、「蜂巣」と呼ばれていたのです。「ハス」という呼び方は、「ハチス」が変化した呼び方なのです。

実をいうと蓮の種、食べれます。驚く人も少なくないと思いますが、誤解はしな

いでください。蓮の種は、最後には黒くなるのですが、黒くなる前の、緑色で、やわらかい種しか食べないそうです。

実際に、「蓮華飯」というのがあります。どんなものかと言いますと…飯器に蓮の花弁を敷き、その上に盛られた白飯をお椀に移し、蓮の種が入った汁をかけたものです。蓮の種は、予め水に浸しておいて、やわらかくしてから使います。

どうですか？ 蓮の種を、「食べてみたい!」と思った人も、「まずそうだから食べたくない」と思った人もいます。

(5) スイレンとの違い

蓮とスイレン、花の形は似ていても、違います。どこが違うかと言うと、葉です。蓮の葉は、図1に示す気葉と呼ばれる葉が中心でしたが、スイレンの葉は、浮き葉と呼ばれる葉が中心です。これなら一目で分かりますよね。

しかし、「スイレン」を漢字に直すと「睡蓮」になります。蓮と似たり寄ったりなんです。

蓮と睡蓮、どちらかというとな睡蓮の方が良く知られているかな…? でも、蓮と睡蓮は違うものなので、区別してください。

IV まとめ

- ・蓮の花は、朝（午前中）にしか開かず、午後になると閉じてしまう。
- ・数ある品種のうち、野生の種はたったの2種で、アジア・オーストラリア北部に分布する種の自生地が失われている。
- ・日本にも、国を代表する蓮がある。それは、「大賀蓮」と呼ばれ、2000年以上も昔の種が無事に成長し、開花した蓮である。
- ・蓮は、仏教やヒンドゥー教などの宗教とも深い関わりがある。
- ・蓮は、睡蓮とは似ているところも多々あるが、別のもの。

V 感想

蓮について、私自身も驚いてばかりで、とても良い勉強になりました。と同時に、蓮がすごく神秘的で、不思議な花に思えてきました。そして、蓮のことをもっともっとたくさん人の知ってもらいたくなりました。

ところで私は、蓮華飯、食べたいです。せっかくここまで蓮のことについて調べたのだから、種の食感を味わってみたいです。

少しでも蓮に興味を持った人は、時間があるときに、蓮について調べてみてください。きっと新しい発見がありますよ。

VI 参考文献

- ・週刊誌「週刊 花百科」 講談社 (2004年7月1日発行)
- ・「Flower Oasis」 小学館 (2000年8月10日発行)
- ・「新修 広辞典第5版」 集英社

- ・長居植物園ホームページ <http://www.ocpa.or.jp/n-syoku/>